

特許情報施策の最新状況について

2023年9月

特許庁 特許情報室

室長 永野 志保



1

特許情報施策の概要

2

J-PlatPatのアップデート状況

3

特許情報取得APIの活用

4

機械翻訳性能の向上

5

さいごに

充実した特許情報の公衆提供

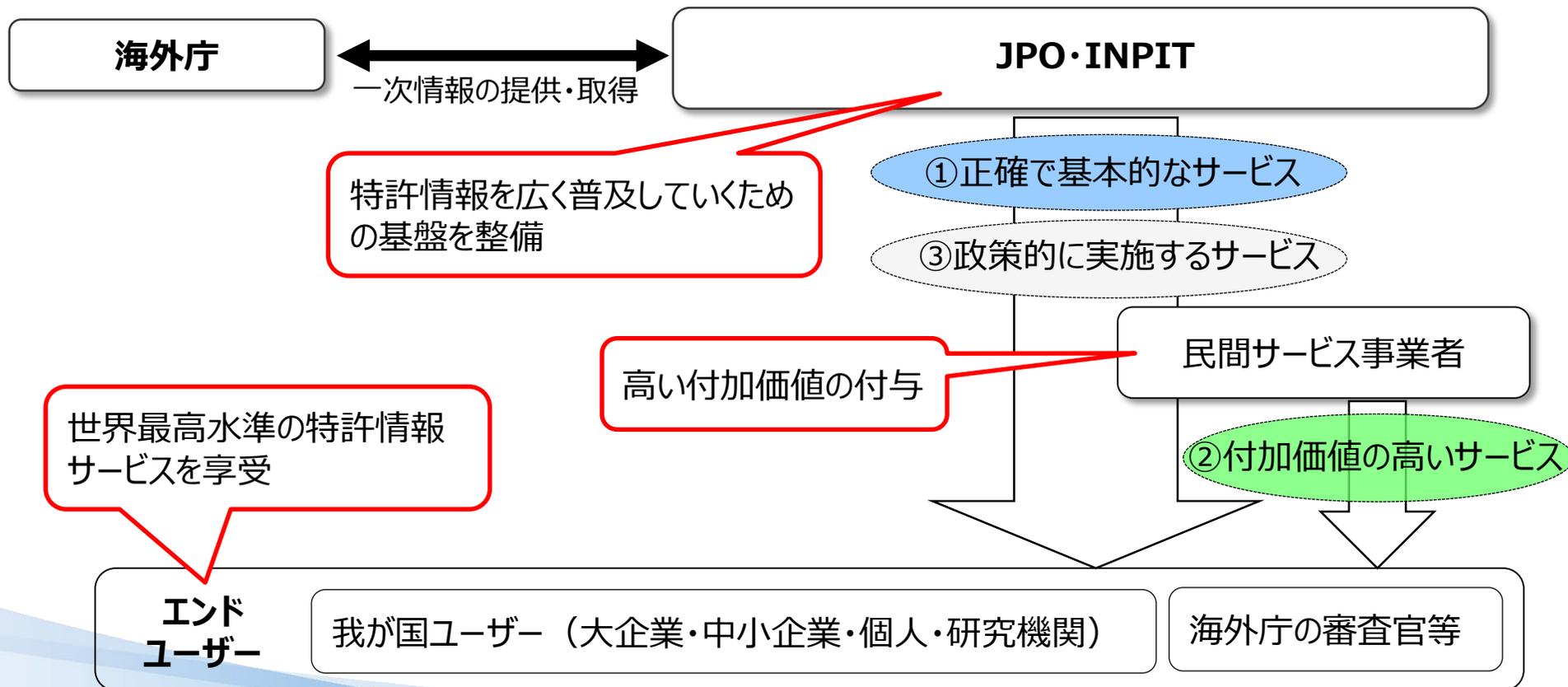
➤ 特許情報の公衆提供は、

【国】 正確で基本的な一次情報の提供(①)

【民間】 国が提供する正確な一次情報に高い付加価値をつけた情報の提供(②)

を基本とし、国は国際的な環境変化や技術動向等を踏まえ、我が国ユーザーが享受するサービスの質が全体として世界最高水準となるように特許情報サービス（政策的に実施するサービス）の提供(③)を行うための基盤整備を行う

(出典) 産業構造審議会 知的財産分科会 情報普及活用小委員会 報告書 (2016年5月)



特許情報施策の概要

J-PlatPat



- 国内特許情報の主要公的サービス
- 特許庁が企画、INPITが運用
- 主要な海外の特許情報を提供
米、欧、中、韓、英、独、仏、スイスなど
(意匠は米、韓のみ、商標は日本国内のみ)

機械翻訳

- 特許公報・審査情報の日英リアルタイム翻訳
- 中韓特許公報の和訳
- 中国特許・実用新案審査情報との和訳

FOPISER



- ASEANの公報、中国審査情報等を提供

特許情報取得API



- 特許情報の一部を機械的に提供

データ交換・管理

- 外国庁との特許情報の交換
- 交換のための外国交渉・ポリシー策定

1

特許情報施策の概要

2

J-PlatPatのアップデート状況

3

特許情報取得APIの活用

4

機械翻訳性能の向上

5

さいごに

J-PlatPatの概要

- J-PlatPatは、インターネットで利用できる無料のデータベース



<沿革>

- ◆ 平成11年に特許電子図書館（IPDL）としてサービス開始
- ◆ 平成27年3月にJ-PlatPatとしてリニューアル
- ◆ 令和元年5月にユーザーインターフェースを刷新・機能を改善

<機能概要>

- ◆ 約1億5000万件の国内外の公報を収録
(特許、実用新案、意匠、商標)
- ◆ 文献番号、キーワード等により検索可能
- ◆ 直感的に使いやすい簡易なユーザーインターフェースを採用
- ◆ 審査・審判関係の書類や経過情報を迅速に提供
(原則受理・発出の翌営業日)

J-PlatPat改造項目の抽出プロセス

ユーザニーズの収集(過去の調査報告書、業界との意見交換より)
約300のユーザニーズ項目を抽出

次の点を踏まえつつ、全ての項目に優先順位付け

- ・ 業界や外国特許庁における**知財情報提供サービスの技術水準**
- ・ 特に中小・ベンチャー企業や個人発明家などにおける検索漏れ防止

さらに、次の項目を優先

- **要望の多い項目**
- **検索などユーザビリティ上不可欠と思われる機能**

その他、セキュリティ上必要な物を高優先順位に

高優先順位の項目についてJPPベンダと**開発可能性(技術困難度など)**を議論

開発可能性と見積もりを踏まえて、JPP開発項目を決定

J-PlatPatのリリース状況

2023年3月リリース

- 検索結果を3000件までCSV出力

2023年9月上旬リリース

- リーガルステータスの提供

2023年10月上旬リリース予定

- ダウンロード件数上限の緩和（公報一括DL、OPD審査書類DL）
- 特実長大公報PDFの分割サイズ上限緩和
- 特実長大公報頁送り機能の実装
- グローバルメニューリンクに画像意匠検索機能“GrIP”を追加
- PMGS画面のリンク押下時における別タブ表示化

2024年2月上旬リリース予定

- 分割情報画面における公開番号など表示情報の追加
- 文献固定アドレスの短縮URLの提供
- 商標検索、審決検索の部分一致検索（人名検索）
- 全法域のテキスト検索式の保存及びインポート／エクスポート機能の追加
- 商標検索処理時及び商標出願・登録情報表示処理時の大量アクセス対策

IP5（五大特許庁）の取り組み：グローバルDシエ優先五項目

- 産業界の要請を受け、複数庁への一括手続をグローバルDシエにおける最終的な目標としつつ、当面、**IP5が優先的に取り組む事項**として優先五項目が策定された。

五庁への一連の出願について、
法的な状態を提供。

リーガルステータス

出願・手続・審査書類の
XML化

出願人名称の統一

優先五項目

五庁への一連の出願に関して、
出願・審査情報の更新を知らせる

アラート機能

特許庁間での書類共有

文献固定アドレスの簡易化

- 長年要望が多数寄せられていた**文献固定アドレスの簡易化**について、実現予定。
- **ユーザの案件管理を容易化**。

【従来】

ランダム文字列を含むURL形式

<https://www.j-platpat.inpit.go.jp/c1800/PU/JP-2023-00XXXX/C9E8D30766DC609136DD02887D205A40FA4E3FBB799B6D3327C100305FC857EC/11/ja>



【本リリース以降】

ランダム文字列を**含まない**URL形式へ変更

<https://www.j-platpat.inpit.go.jp/c1800/PU/JP-2023-00XXXX/11/ja>

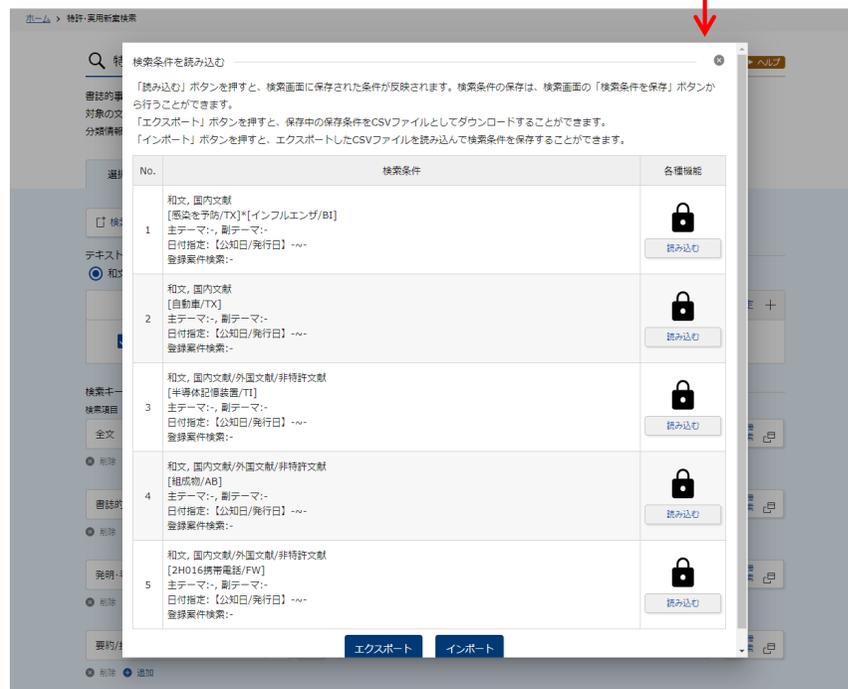
(表示例)

The screenshot shows a patent search result page with a modal dialog box titled "URLコピー" (Copy URL). The dialog box contains the text "特表XXXX-XXXXXXのURL情報をコピーしました。" (Copied URL information for Special Publication XXXX-XXXXXX) and the URL "https://www.j-platpat.inpit.go.jp/c1800/PU/JP-2016-526353/DB0339AEF8FE3F22AEC38A3F617E4822C37E44E465DA457B04893FFA8128EECC/11/ja". A "閉じる" (Close) button is visible at the bottom of the dialog. The background shows a list of patent details, including fields like "発行国" (Country of origin), "公報種別" (Publication type), "公表番号" (Publication number), "公表日" (Publication date), "発明の名称" (Title of invention), and "国際特許分類" (International patent classification).

テキスト検索式の保存とインポート／エクスポート機能

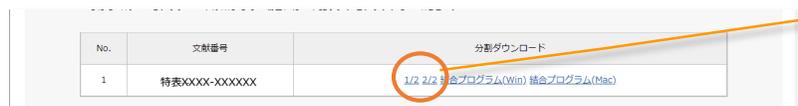
- 検索式を**最大5件**まで保存し、CSV形式のインポート・エクスポートする機能を追加。
- ユーザーの**効率的な文献調査、日をまたいだ調査継続**が可能に。

(画面イメージ)特許・実用新案検索



ダウンロード件数・サイズなどの改善

- ダウンロードに関して以下の機能を改善。
 - 文献PDFファイル分割時のファイルサイズを5MBから25MBへ拡張。
 - 公報一括ダウンロード可能件数を5件から20件へ拡張。
 - OPD審査書類のダウンロード可能件数を5件から10件へ拡張。
- **効率的なダウンロードにより、調査に要する全体作業の短縮化。**



文献PDF分割サイズを
5MBから25MBへ変更。



公報一括ダウンロード可能件数を
5件から20件へ変更。



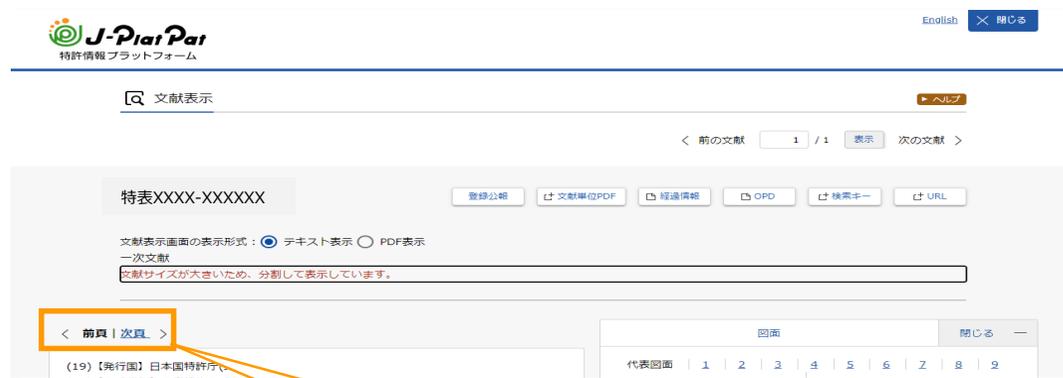
OPD審査書類ダウンロード可能件数を
5件から10件へ変更。

ページ指定によるページ送り機能

- 文献サイズの大きいページ送りの際、ページ指定機能を追加。
- 所望のページへ容易にアクセスできるため、文献調査を効率化。

【従来】

次ページ、前ページへ1ページずつ移動する必要があった。



< 前頁 | [次頁](#) >

【本リリース以降】

ページを指定して所望のページへ移動することが可能に。

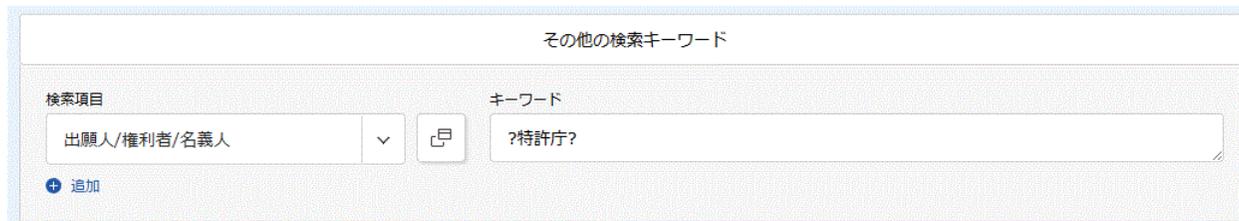


商標検索、審決検索の部分一致検索（人名検索）

- ワイルドカード (“?”)が無くとも、**部分一致検索**を可能に。
- **商標文献調査における検索漏れを防止。**

【従来】

検索ワードに“?”を付けなければ部分一致検索ができなかった。



その他の検索キーワード

検索項目 出願人/権利者/名義人

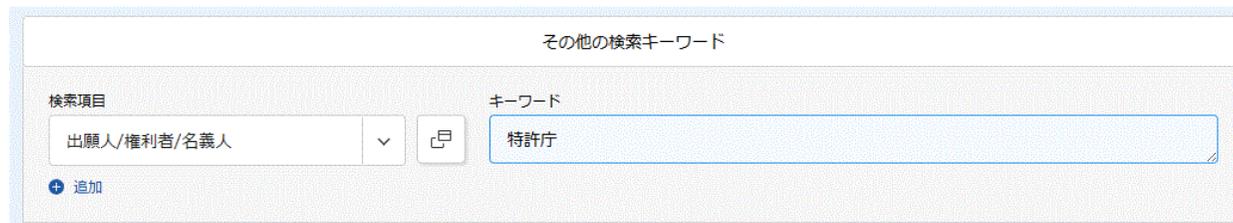
キーワード ?特許庁?

+ 追加



【本リリース以降】

検索ワードに“?”を付けなくても、部分一致検索が可能に。



その他の検索キーワード

検索項目 出願人/権利者/名義人

キーワード 特許庁

+ 追加

GrIPへのアクセス容易化

- グローバルナビの意匠法域のメニューに、GrIPへのリンクを追加。
- J-PlatPatから意匠画像検索機能へのアクセスを容易化。



グローバルナビで選択すると、GrIPへジャンプ



1

特許情報施策の概要

2

J-PlatPatのアップデート状況

3

特許情報取得APIの活用

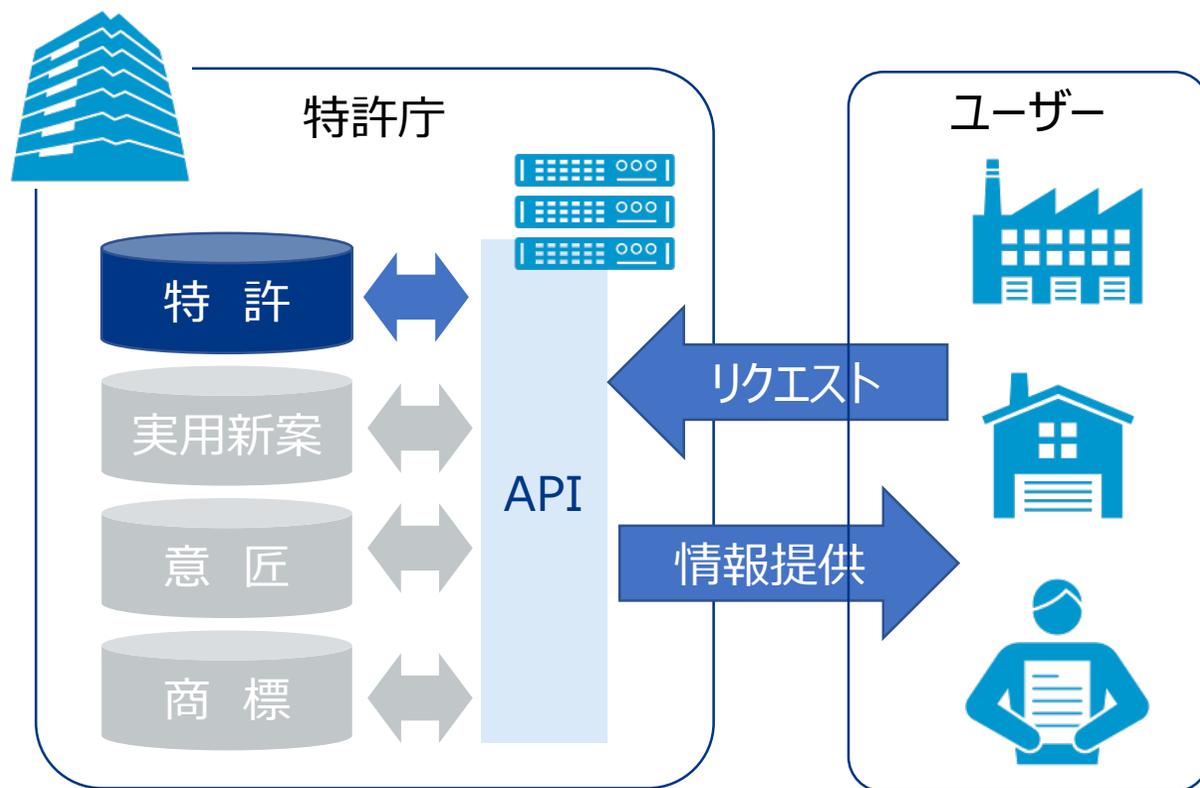
4

機械翻訳性能の向上

5

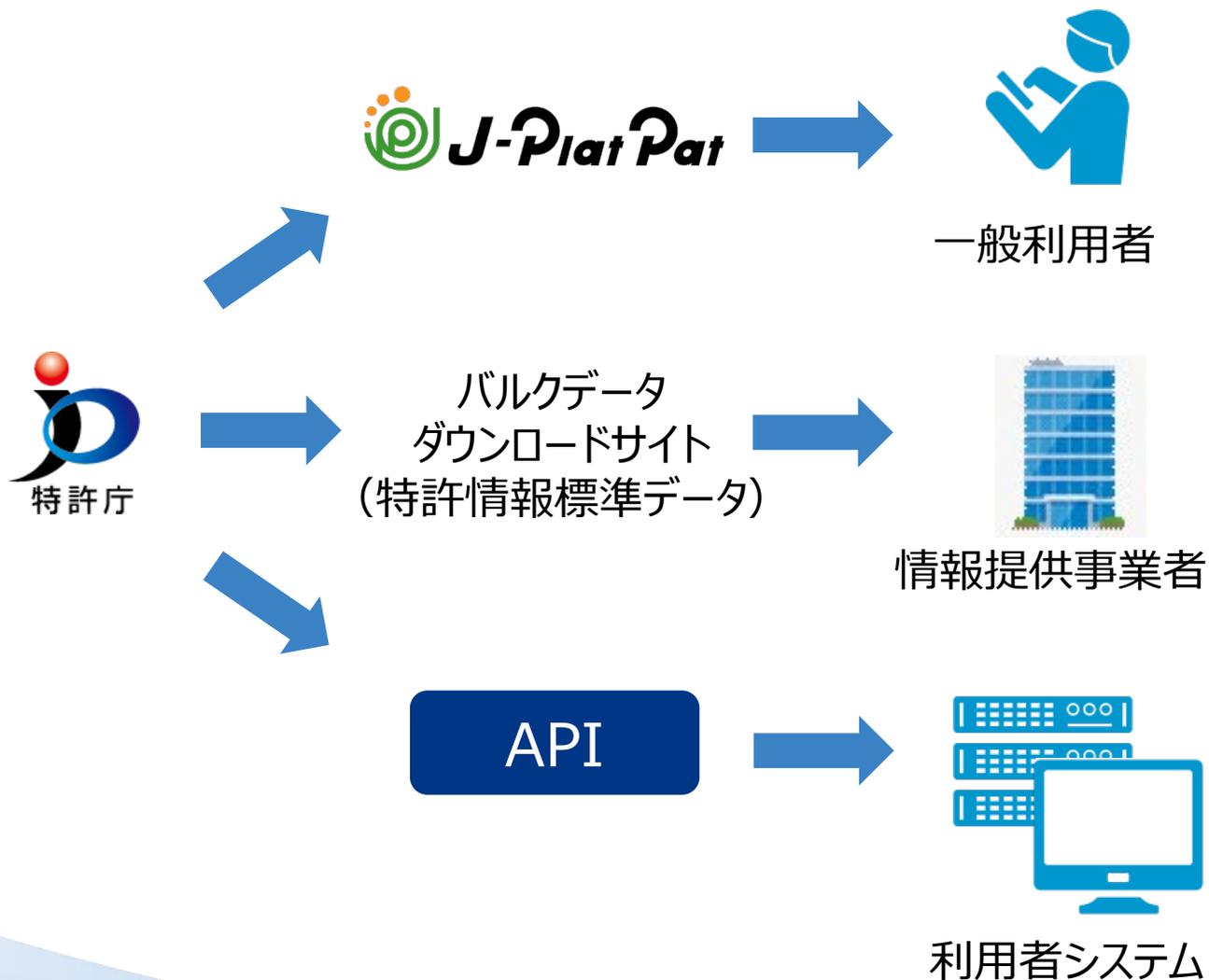
さいごに

特許情報取得APIの試行提供（令和4年1月から開始）



- 利用登録制（**利用者**（原則として法人単位）**につき1ID**を付与）
- **APIごとにアクセス上限値**を設定
- 利用者の事情に応じてアクセス制限を緩和

特許情報取得APIサービスと既存サービスとの比較



○ 利用が容易

× インターフェイス固定

○ DB構築可能

× 導入コストが大きい

× 取扱いの難易度が高い

(アプリケーション構築により)

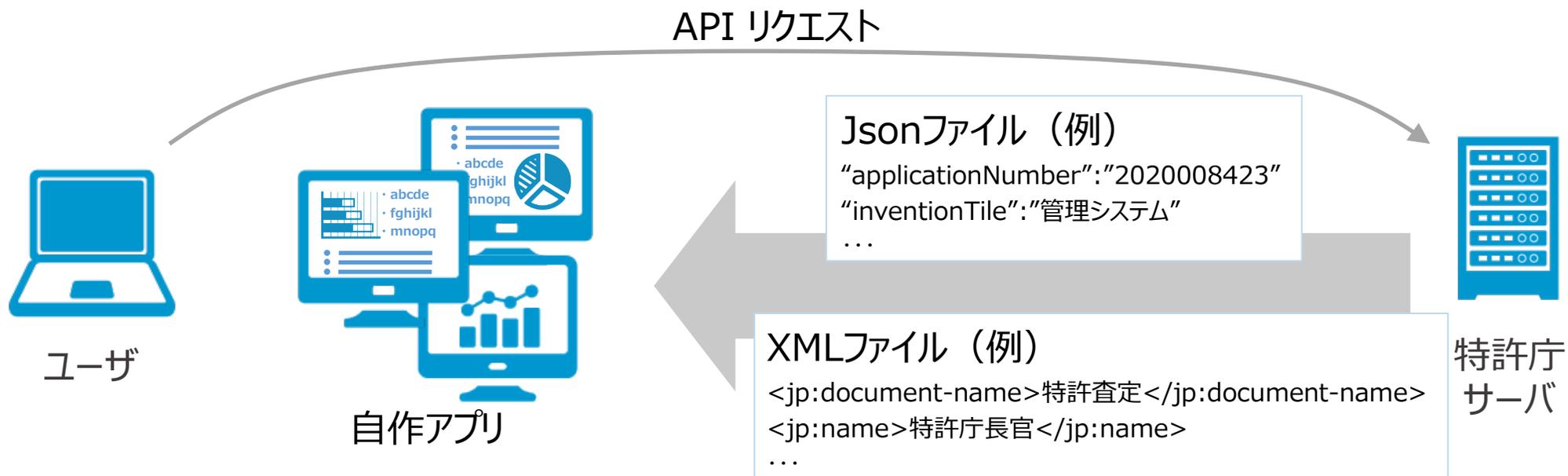
○ 高度な利用が可能

○ 導入コストが小さい

× ITスキルが必要

APIの利用のしかた(詳細)

利用者の自作アプリケーションでAPIから提供される特許情報データを柔軟に利用することが可能



自作アプリケーションでデータ処理

- 自己出願の案件管理
- 他者出願の監視
- 書類のチェック、雛形の作成
- 情報の分析 など

テキストデータを返却

機械処理しやすい構造化データ

- Jsonファイル
- XMLファイル

新たなAPIのリリース

従来の特許審査経過情報に加えて、**商標審査経過情報**、**意匠審査経過情報**、及び**OPD情報**を取得できるAPIを新たに提供開始。(2023.04～)

【従来】主に特許の審査経過情報

経過情報、分割出願情報、優先基礎出願情報、特許申請人氏名・名称、申請人コード、番号参照、申請書類、拒絶理由通知書、引用文献情報など

【2023.04～】

○ OPD

ファミリー情報、ファミリー一覧情報、書類一覧、分類・引用情報、書類実体、JP書類実態

○ 意匠

経過情報、優先基礎出願情報、申請人氏名・名称、申請人コード、番号参照、申請書類、発送書類、拒絶理由通知書、登録情報、J-PlatPat固定アドレス

○ 商標

経過情報、優先基礎出願情報、申請人氏名・名称、申請人コード、番号参照、申請書類、発送書類、拒絶理由通知書、登録情報、J-PlatPat固定アドレス

○ 特許

特許J-PlatPat固定アドレス取得、特許PCT出願の日本国内移行後の出願番号

1

特許情報施策の概要

2

J-PlatPatのアップデート状況

3

特許情報取得APIの活用

4

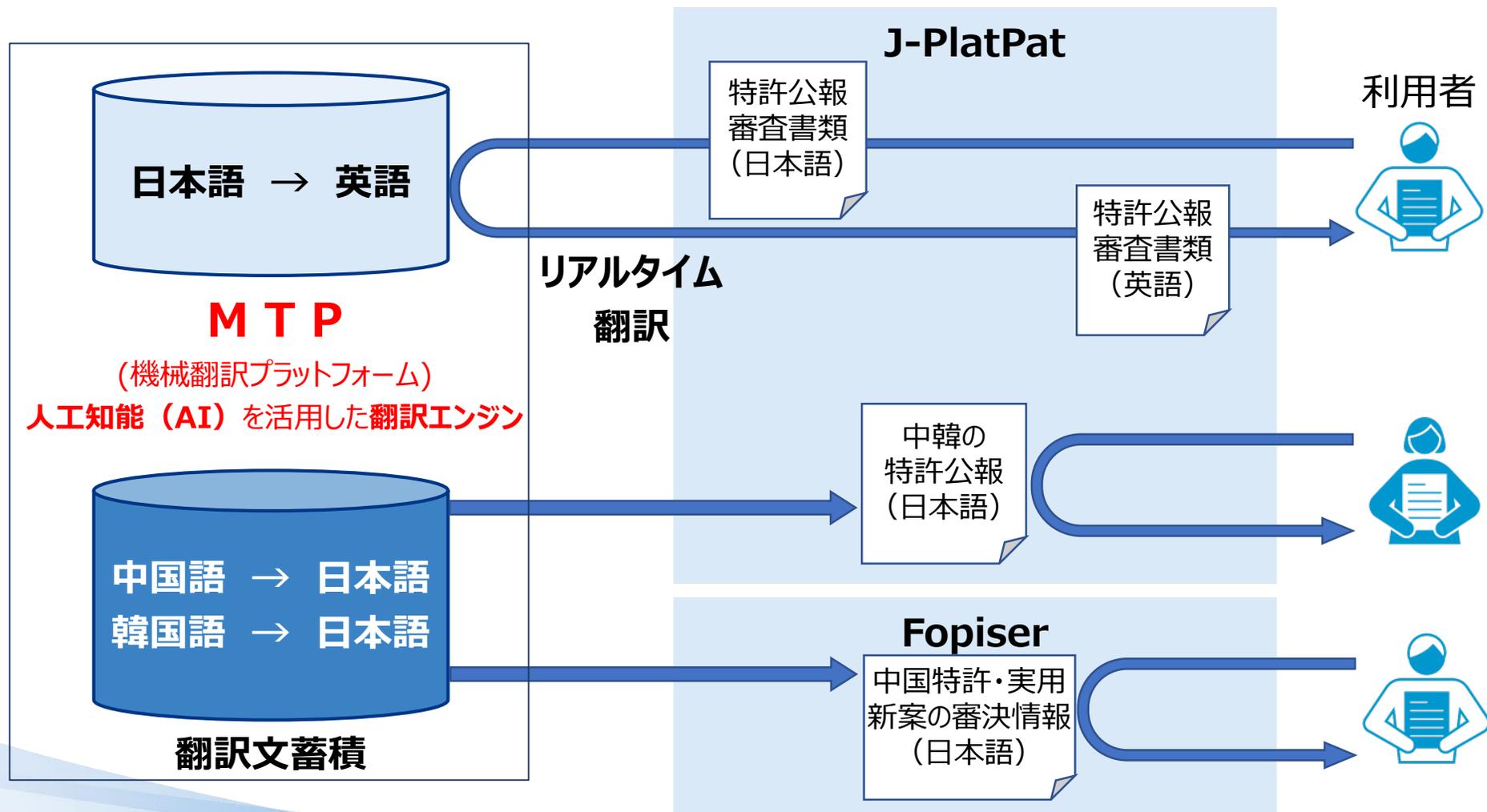
機械翻訳性能の向上

5

さいごに

機械翻訳を活用した特許情報の提供

- J-PlatPatを介して、特許公報・審査情報の日英リアルタイム翻訳と、中韓特許公報の和訳を提供
- Fopiserを介して、中国特許・実用新案審決情報の和訳を提供



機械翻訳の訳質向上～エンジンのアップデート～

- 日英機械翻訳エンジン・中日機械翻訳エンジンを、NT型からTransformer型へ。
→ 請求項、明細書の訳質が、自動評価値・人出評価値の双方で向上。(2023年7月)

● 日英エンジン

エンジン	対象項目	評価尺度	現行評価値	後継評価値	評価差
公報版	請求項	BLEU	49.5	55.6	6.1
		RIBES	89.5	91.3	1.9
		人手評価	3.38	3.63	0.25
公報版	明細書	BLEU	42.3	47.9	5.6
		RIBES	84.2	86.3	2.1
		人手評価	3.38	3.63	0.25

● 中日エンジン

エンジン	対象項目	評価尺度	現行評価値	後継評価値	評価差
公報版	請求項	BLEU	54.8	60.4	5.6
		RIBES	86.5	88.2	1.7
		人手評価	4.25	4.50	0.25
公報版	明細書	BLEU	49.5	54.0	4.5
		RIBES	86.6	88.5	1.9
		人手評価	3.88	4.38	0.5

1

特許情報施策の概要

2

J-PlatPatのアップデート状況

3

特許情報取得APIの活用

4

機械翻訳性能の向上

5

さいごに

官民データ共有ワークショップ

- 日本のイノベーション促進として知的財産推進計画において「スタートアップ・大学の知財エコシステム強化」があり、そこに関わるステークホルダと知財情報の官民データ共有のあり方を検討する旨、記載されている。
- 本事業では、公開情報調査などを行った上で、各ステークホルダを交えた2回のワークショップを通して課題や要望を具体的に把握し、取組事項を整理した。(2022年12月～2023年1月)

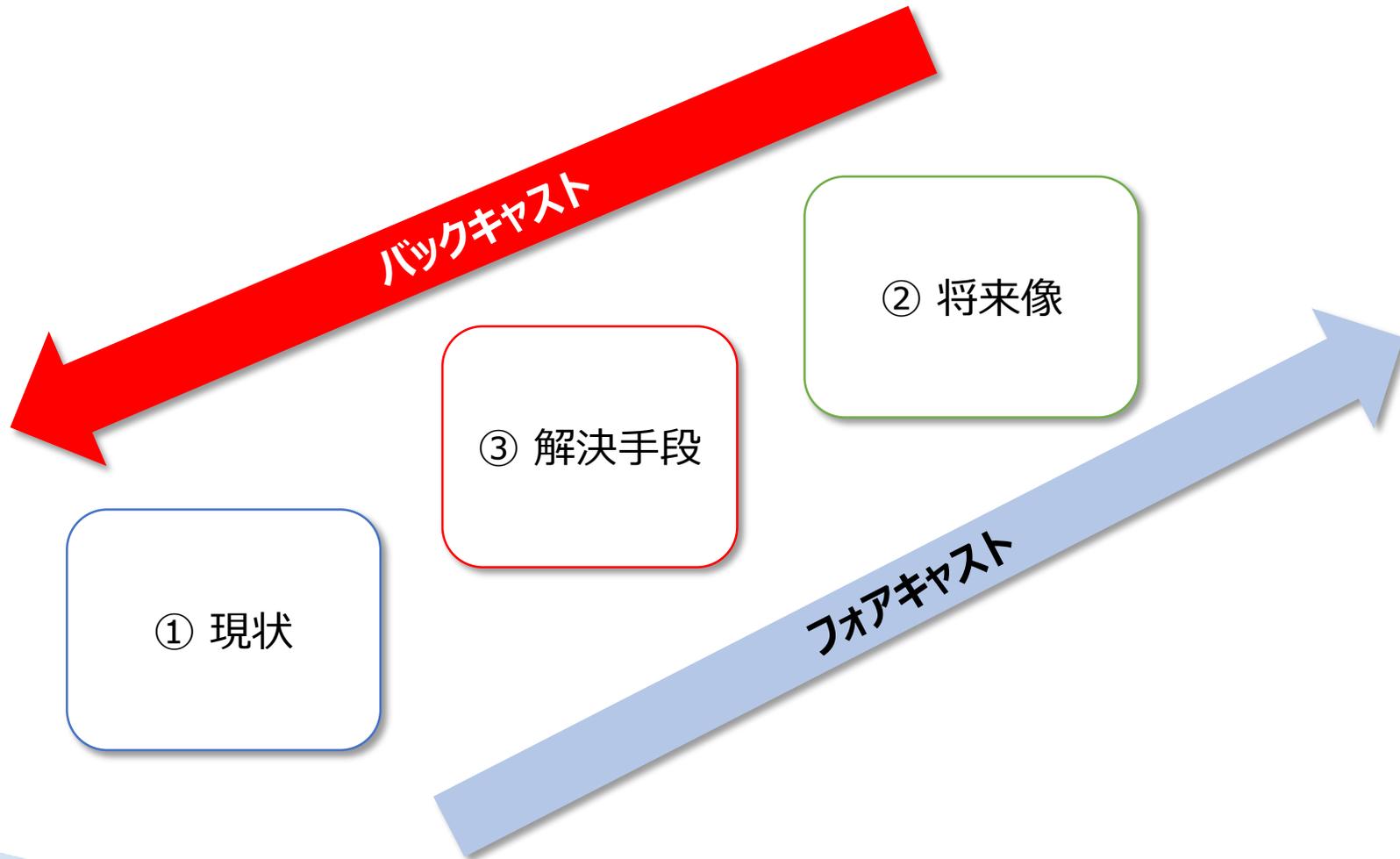
No	分類	検討テーマ(望ましい将来像)	キーワード	観点
1	技術調査	専門家以外でも自身にとって有用な知財を容易に発見できる。	検索容易化、機械翻訳	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; margin-bottom: 5px;">官民データ連携(共有/分担)</div> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; margin-bottom: 5px;">データフォーマットの標準化</div> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; margin-bottom: 5px;">AI等の先端技術の利用</div> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; margin-bottom: 5px;">想定ユーザ(大企業、ベンチャー、大学...)</div> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">どのような知財情報がどのように提供されるべきか</div> </div>
2	マッチング	<ul style="list-style-type: none"> 知財情報に基づいて知財提供者と知財活用者が容易にマッチングできる。 知財活用者と知財専門家を容易にマッチングできる。 	需給情報、ライセンス可否の公開	
3	分析	知財情報と他の情報(企業情報や論文情報、分類など)との紐付けが容易になり、様々な分析・評価ができる。	関連情報の提供、情報へのタグ付け、IPランドスケープ、価値評価	
4	出願のスマート化	知財素人でも簡単に提出できる。(研究開発成果を容易に出願書類化、権利化可能性の判断の容易化など。)	調査(プレ審査)、権利化手続の簡略化	
5	内容理解	専門家以外でも特許の内容、特徴を容易に把握できる。	知財の要約、機械翻訳	
6	活用ファースト	知財の活用方法を見据えた知財の創造、権利化が行いやすくなる。	需給情報、調査	

(参考)ワークショップ参加メンバー属性

情報分析事業者	株式会社日立製作所
	株式会社ユーザベース
	株式会社AI SAMURAI
	株式会社amplified AI
	日本パテントデータサービス株式会社
	株式会社発明通信社
	パナソニック ソリューションテクノロジー株式会社
	サイバーパテント株式会社 (Questel)
マッチング事業者	VALUENEX株式会社
	アスタミューゼ株式会社
	Tokkyo.Ai株式会社
	株式会社知財図鑑
知財活用者	ピクシーダストテクノロジーズ株式会社
	PicoCELA株式会社
知財専門職	特許事務所日本知財サービス
	株式会社日立製作所知財部
知財保有者	株式会社NearMe
	国立大学法人 東京医科歯科大学
官側関係者	特許庁 総務部 普及支援課、企画調査課、情報技術統括室
	(独)工業所有権情報・研修館
	内閣府 知的財産戦略推進事務局

(参考) デザイン思考に基づく未来志向について

知財情報を巡る環境について、①現状認識し、のぞましい②将来像を描き、それらのギャップから③解決手段を導いていく



ワークショップの検討結果～主な意見～

- 中小・ベンチャー企業からは、**概念検索**など検索の容易化、**平易な文章**による特許文献の**要約化の提供**・**検索結果ダウンロード件数の増加**、**PMGSの改善**などの要望が出された。
- 情報分析事業者からは、官に対して、**データ形式の標準化**、**機械翻訳データ**や**名寄せ情報の提供**などの要望が出された。

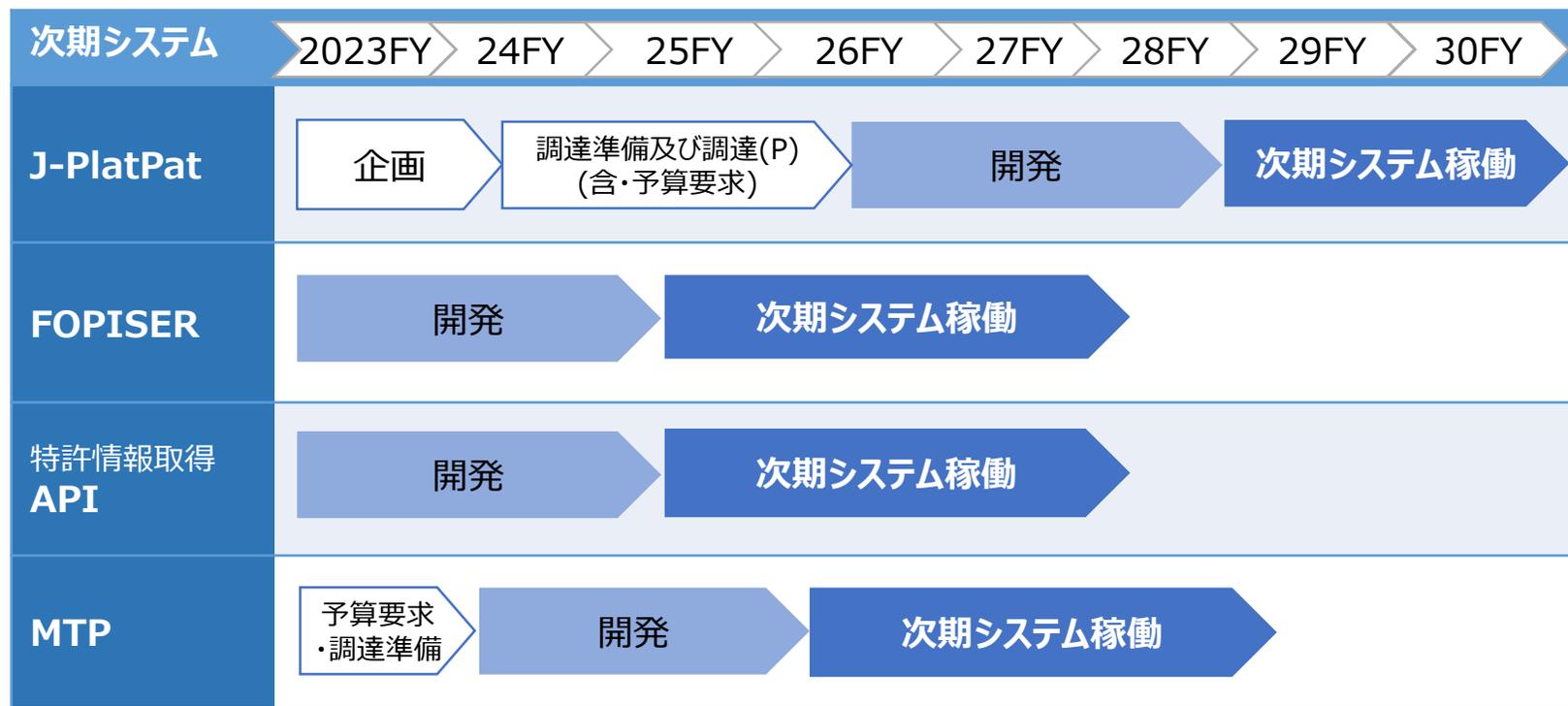
テーマ	意見概要
技術調査	分類コード(CPC・IPC、FI・Fターム)の整合情報 の提供・新旧コンコーダンスのアクセス容易化
	平易な文章 による特許文献の 要約化
	AI を活用した検索UI、サービスの実現・自然文をインプットにした 概念検索
	メンテナンス時間の短縮
	機械翻訳データ の提供(特に英語文献の日本語訳)
情報分析	名寄せ効率化 のために必要な情報の提供
	分析しやすい一次情報の提供・データ形式の 標準化
	J-PlatPatの機能強化
	知財情報 + α の有益な 分析手法 の確立
	特許情報分析の 見える化・グラフ化
	J-PlatPatの データダウンロードの利便性向上 ・件数拡大

今後の方向性

- 今後、**知財立国**としてさらに発展するためには、知財部のみならず、技術者・経営企画部など**幅広いユーザーが特許情報を簡便に調査できる環境を、国全体として整備していくことが不可欠。**
- さらに、中小・ベンチャー企業や、個人（学生・主婦を含む）など**知財ステークホルダーの裾野を拡大するために、特許情報へ容易にアクセスできるサービスはどのようなものか、**様々なステークホルダーと今後も検討していく。

今後のスケジュール(次期システムリリースに向けて)

- **Fopiser,特許情報取得APIサービス**は、**2025年**にシステム刷新を予定。
- **J-PlatPat**は、**2029年**にシステム刷新を予定。現在大きな開発項目について庁内外関係者と検討中。
- **MTP(機械翻訳プラットフォーム)**は、**2026年**に新システムへ移行予定。



ありがとうございました

特許庁 特許情報室

PA0630@jpo.go.jp



補 足

機械翻訳の訳質向上～機械翻訳に関する調査～

➤ 令和3年度の調査報告

- 審査書類・審決の機械翻訳精度の調査・分析
(日本語－英語の対訳コーパスを200万作成)
- 中国審決の機械翻訳精度の調査・分析
(中国語－日本語の対訳コーパスを200万作成)
- 機械翻訳プラットフォームの中日翻訳における
未知語選定等に関する調査研究
(中国語－日本語の対訳コーパスを6,000作成)

対訳コーパスの作成



翻訳エンジンの翻訳精度検証

未知語 (※) を調査



未知語からコーパスを作成

(※) 機械翻訳できずに原語が残る単語

作成されたコーパスは、
翻訳エンジンに学習させることで、
翻訳品質の改善に活用

日本語 → 英語

中国語 → 日本語

特許庁で利用する翻訳エンジン